

2012年11月2日

各位

室蘭製油所の事業再構築について

当社（社長：一色 誠一）は、本日、室蘭製油所（所長：三ツ井 克則）について、2014年3月末に原油処理を停止したうえで、同年6月より、石油化学製品の製造および石油製品の物流拠点として事業を再構築（以下、「石化工場化」）することを決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、現行中期経営計画における基本戦略のひとつとして、内需減退に先んじた国内トップの競争力を備えた製油所体制を構築すべく、精製能力の削減に取り組んでまいりました。

今般、更なる競争力強化に向けて、様々な観点から総合的に検討した結果、室蘭製油所において、原油処理（日量18万バレル）を停止する一方で、新たに設備投資を実施のうえ、二次装置※を活用することにより、アジアを中心に大幅な需要の増加が想定される石油化学製品の製造拠点として、高機能化・高付加価値化を追求することといたしました。

石化工場化後は、SKグループと合併で韓国に新設するパラキシレン製造設備（2014年度稼働予定）用の原料となるアロマ基材等の製造・輸出を行ってまいります。

また、石油製品の物流拠点としての油槽所機能は存続し、引き続き北海道地区への灯油をはじめとする石油製品の安定供給に向け、万全の体制を確保いたします。

※ 原油処理を行う常圧蒸留装置を一次装置というのに対し、それ以降の精製装置を二次装置という。

<室蘭製油所 事業再構築の概要>

1. 所在地

北海道室蘭市陣屋町一丁目172番地

2. スケジュール（予定）

2014年3月末 原油処理停止（常圧蒸留装置の廃止）

2014年6月 石油化学製品の製造開始（石化工場化）

3. 石化工場化後の主な事業内容

- ① 石油化学製品の製造・輸出
- ② 石油製品の受入・備蓄・出荷（油槽所機能）

以上

【JX日鉱日石エネルギーの製油所体制】

| 製油所名 | 原油処理能力 (千BD)※1 | | 原油処理能力削減内容 |
|-------------------------|-------------------|----------------------|---|
| | 2008年 12月時点 | 2014年 3月末 (予定) | |
| 室蘭製油所 | 180 | — | 2014年3月末 原油処理停止(180千BD)・石化工場化(予定) |
| 仙台製油所 | 145 | 145 | |
| 根岸製油所 | 340 | 270 | 2010年10月末 第2トッパー(70千BD)を廃止 |
| 大阪国際石油精製(株) 大阪製油所 ※2 | 115 | — | 2010年10月1日 大阪製油所(115千BD)を 輸出製油所化(当社から大阪国際石油精製(株)へ移管) |
| 水島製油所 ※3 | 455 | 345 | 2010年6月末 A工場の第2トッパー(110千BD)を廃止 |
| 麻里布製油所 | 127 | 127 | |
| 大分製油所 | 160 | 136 | 2010年5月末 第1トッパー(24千BD)を廃止 |
| 鹿島石油(株) 鹿島製油所 ※4 | 210 | 189 | 2010年5月末 第1トッパーの原油処理能力を21千BD 削減 |
| 日本海石油(株) | 60 | — | 2009年3月末 旧 富山製油所を原油処理停止・オイルターミナル化 |
| グループ計 ※5 | 1,792 | 1,212 | 2008年12月比 ▲580千BD |

※1 製油所の規模を表す原油処理能力は、トッパー(常圧蒸留装置)の通油能力により示されます。

※2 輸出製油所化のため、内需減少への対応としては、全量(115千BD)を削減としてカウントしています。

※3 2009年8月に完成した研究設備コンデンセートスプリッター(処理能力35千BD)は外数。

※4 鹿島アロマティックス株式会社が所有し、鹿島石油株式会社が運営するコンデンセートスプリッター(処理能力63.5千BD)は外数。

※5 室蘭製油所の事業再構築により、エネルギー供給構造高度化法の要件は満たすこととなります。